

事業実施報告

開催日	令和6年10月5日(土)～10月6日(日)		
事業名	テンちゃんキャンプ (ボランティア自主企画事業)		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	47人
対象	小学校3～6年生		
関係機関名			

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

[事業の内容]

1泊2日の日程で「出会いの会 (アイスブレイク)」・「ウォークラリー」「創作」・「ナイトハイク」・「野外炊事」・「おわりの会 (振り返り)」を主なプログラムとして行った。当日までの準備 (企画立案・実地踏査) は、ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトにおいて行った。

今年度は、郷土の童話作家・宮沢賢治が思い描いた理想郷「イーハトーブ」を子どもたちなりに感じてもらう (地域の自然や文化のすばらしさを感じる) ことをテーマにした。そこで、野外炊事では、郷土料理のひつつみや雑穀ご飯を作り食べる体験をした。また、ウォークラリーでは、どんぐりや栗などの木の実を拾いそれを材料として創作活動をした。ナイトハイクでは、暗闇の自然の中で岩手にまつわる話を聞いたり星空を観察する活動をした。

運営においては参加した子供たちが楽しく安全に過ごすことができるように、子供たち5～6人の各班にボランティアを3名ずつ配置するとともに、統括リーダー・全体補助がフォローできる体制とした。また、ミーティングを行うことでボランティア同士がコミュニケーションを深め、子供たちとの関わり方や活動の安全管理について互いに情報共有し、経験を重ねているボランティアから新人ボランティアにアドバイスをしながら事業を進めた。

[成果]

・事業後の参加者アンケートでは、事業全体に関する満足度について、100%の参加者から「満足」「やや満足」の肯定的評価を得ることができた。また、ボランティアの対応についても、同様に100%の肯定的評価を得ることができ、参加者とボランティアがよい関係を築けていたことがうかがえる。

・参加者の感想では、「ひつつみや雑穀ご飯がおいしかった」「久しぶりに星を見てきれいだった」「栗やどんぐりがたくさん落ちていてすごいと思った」「ナイトハイクで色々な人が岩手のことを説明してくれて、初めて知ったこともあった」などの声が寄せられた。子どもたちなりにこの事業を通して、地域の自然や文化について様々なことを感じ取ったようだ。

・ボランティアにおいても、「子どもたちの様子をしっかりと観察し、配慮することの大切さを学んだ」「事故やけがを防ぐためにボランティア同士がコミュニケーションを取り合い、子どもたちから目を離さないようにすることの大切さを学んだ」「先輩ボランティアから子どもたちを自分に注目させる方法として、声のメリハリや言葉の言い換えなど様々な工夫があることを学んだ」「人見知りだと思っていた子が、活動が進むうちに自分の意見を言えるようになって安心するとともにすごくうれしく感じた」「岩手の自然のことについて子どもたちの話を聞いてあげると、表情がとても生き生きしているのを感じた」等の感想があり、子どもやボランティア同士のかかわりの中でのボランティア自身の成長や、この事業に対する達成感も感じられた。

[課題]

・中心となっているボランティアが教育実習等のためボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトに参加できないことが多く、情報共有をしながらも限られたメンバーで作業を進めなければならなかった。

・当日、プログラムの進行に時間的な余裕がないように感じられた。

状況写真



「出会いの会」



「野外炊事」



「ナイトハイク」



「ウォークラリー」



「創作」



「おわりの会」